

なじらね.jp

なじらね
春
どっとじゃーピー

平成 22 (2010) 年 4 月 30 日 (金) 発行 - 第 3 号 -



[発行人] 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長 平山 征夫 / 事務局長 横山 容司郎
The Supporting Organization of JOCV NIIGATA
[事務局] 〒950-2063 新潟県新潟市西区寺尾台3-6-5 有徳ビル3F (株)アルファブライト 内
Tel. 025-268-0200, Fax. 025-260-1226, E-mail; n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL http://www.n-sojocv-najirane.com
[題字] 藤田 美枝子 (※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか?」の意味)
[編集人] 広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headline -

- 【巻頭言】 “なじらね.jp”の第3号の発行に寄せて P-1
【表】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第1回理事・役員会を開催 P-2
【式】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」新年会を開催して P-2
【参】 本県出身のJICAボランティア(青年海外協力隊&シニア海外ボランティア)
平成21年度2次隊(H21-2)、平成21年度3次隊(H21-3)が任国へ赴任! P-3
【四】 派遣中隊員から新潟にSOS!! そしてその後 P-4,5
【五】 派遣中隊員、帰国隊員よりメッセージ P-6,7
【六】 初の試み! 本県出身帰国隊員の帰国報告を実現! P-7
★ JICAボランティア用語、お知らせ P-8

Let's Access Our Official Homepage! ★ <http://www.n-sojocv-najirane.com>

【巻頭言】“なじらね.jp”第3号の発行に寄せて ～ ジャパン・アズ・No.1、今は昔? ～

にいがた青年海外協力隊を育てる会

理事 小川 浩司

(相互タクシー株式会社 代表取締役)

“日本は過去の国か”、と先日あるTVで見ました。先進主要国が日本に見切りを付けているようです。またある雑誌には、薄型TV・携帯電話等、日本の得意分野が既に韓国・中国に追いつかれ、追い越されそう／追い抜かれた等の記事でした。さらにショックな事は、将来自分の国に期待・希望を抱けるかの問いに日本は28位程に位置していることです。ある経済的側面かもしれませんが、まさに“ジャパン・アズ・No.1、久しからずや”、です。

さらに興味深いことに、お隣の韓国では国家プロジェクトとして、英語力をベースに世界に通用する人材の育成を進めており、多くの韓国人が世界中で働き、成功しているとのこと。まさに、“人財育成”です。混迷している現在の日本においても、人材育成こそ最重要・最優先であることを再確認するものです。

「にいがた青年海外協力隊を育てる会」は、単なるOB・OG会ではなく、新潟の地域社会から大いなる発信力を持ち、地域から全国へ、そして世界へと貢献でき得る組織と期待するものです。それは、日本人としての誇りの復活をきちんと出来る人達の集まりだから。



【巻】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第1回理事・役員会を開催！

平成21年11月28日(土)、16:15～17:15、「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第1回理事・役員会が新潟会館(新潟市中央区)において開催されました。会の冒頭、平山会長から挨拶を頂き、下記の内容について大変活発に意見交換が行なわれました。なお、出席者は次の通りです。役員(会長、副会長、理事、幹事)8名、運営委員5名、新規理事・運営委員候補者3名、(社)協力隊を育てる会1名(※委任状6名、当日欠席者2名)。

1. 小さなハートプロジェクトについて

(社)協力隊を育てる会 事業・支援課の田中浩平氏より説明がありました。このプロジェクトは、青年海外協力隊隊員が活動に対して、通常業務以外であっても、格段の効果が認められるプロジェクトを現地の方々と共に企画・申請し、日本の支援者より支援金を募り、実施していくものです。1件あたり30万円を上限に、青年海外協力隊協力隊の活躍する世界60数カ国より年間約20件の申請が送られてきます。すでに600件以上のプロジェクトが市民の皆様の募金により実施されています。新潟県出身者の案件を審議していただきました。

2. 新潟県内の各自治体の協力隊の周知度と今後の対応策について

青年海外協力協会(JOCA)により全国的に「青年海外協力隊応募促進キャラバン隊」活動が行なわれました。6月には新潟県内すべての自治体に対しても実施され、その報告を踏まえた今後の具体的な対応策、また民間企業からの現職参加者を増やすための対策を審議して頂きました。具体的には、民間企業の中で社会貢献企業に相当する企業や、重点職種に相当する分野をピックアップし、ピンポイントで啓蒙活動を行う、等の案が出ました。

3. 新規会員の勧誘方法について

会員数を倍に増やすための方策を審議して頂きました。今後、会としてイベントの企画・実施や関連イベントへの参画により、会の紹介や会員勧誘を図る必要性を確認しました。また、村上地区・新潟地区・長岡地区・上越地区に支部長を置き新規会員の獲得を目指す、支部制の必要性についても確認、次回総会に提案することになりました。

4. 新役員の追加について

新理事に森田敏明氏と楚山恭男氏、新運営委員に小泉勝氏を次回総会において推薦することを確認しました。

5. 前期活動報告

本年4月から10月までの活動内容を事務局より報告して頂きました。その中でもとくに、ベトナムで活動中の本県出身隊員からの要請に対して、県内はもとより全国から約1500冊の絵本が集まり、船便で送った事例についての報告を致しました。

(文・写真：横山 容司郎)



会の活動方針などについて議論して頂きました



(社)協力隊を育てる会 事業・支援課田中浩平氏よりご説明

【弐】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」新年会を開催して

本年2月6日、下越地区中心に大寒波が襲来し、高速道路を中心に大変な交通麻痺が起こる中、新潟青年海外協力協会との共催でアトリウム長岡にて新年会を開催しました。30人近い育てる会関係および協力隊OVの皆様方に御参集頂き、誠に感謝の気持ちで一杯です。協力隊関係に従事する事に誇りを持ち、素晴らしい団結力、私自身OVで本当に良かったと思える瞬間でもありました。私もライオンズのメンバーを、3人程誘って新年会に行きましたが、3人とも協力隊への印象があまりにも強く、このような行動力や組織力のある団体があるのかと、驚嘆しておりました。

しかし、私達OVが海外で体験してきた事、2-3年間開発途上の国で生活してきた事に基いて、一般の人たちに開発途上の悲惨な実態を当たり前の上に立って説明しても、中々理解してもらえないことは多々あります。実際、今回私の所属するライオンズクラブで、私が企画したマニラスタディーツアーに同行した人からは、パヤタスのごみの山で暮らす子ども達の暮らしぶりを見て、「道が汚くて歩けない」「汚い椅子に座れない」といった言葉も返ってきました。冷静に考えれば、いつも海外旅行へ行けば観光地にしか行ったことのない人たちにとってこのような体験は初めてですから、きっと素直に感じられたことなのでしょう。

私自身、当たり前の上に立った説明ではなく、もっともっと、協力隊と云う組織を一般の方々に身近に感じて頂ける様、そして、たくさんの育てる会の入会者が増えるように、今後とも努力して行こうと思っています。



(文：楚山 恭男 / 写真：横山 容司郎)

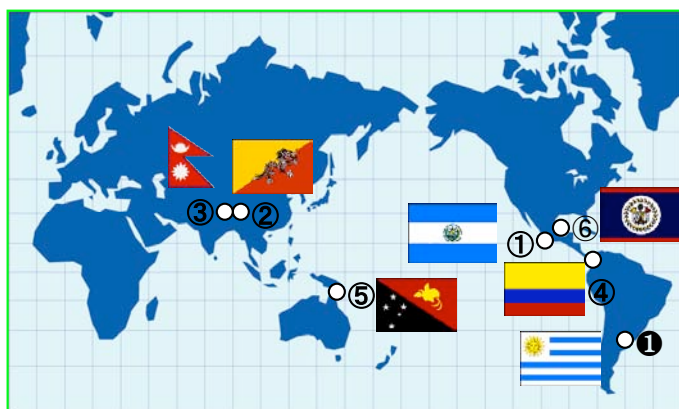
【参】 本県出身のJICAボランティア（青年海外協力隊&シニア海外ボランティア） 平成21年度2次隊(H21-2)、平成21年度3次隊(H21-3)が任国へ赴任！

本県出身の青年海外協力隊(JOCV)・シニア海外ボランティア(SV)、平成21年度2次隊(H21-2)の新隊員10名(JOCV 5名+SV 5名)が平成21年9月末に、平成21年度3次隊(H21-3)の新隊員7名(JOCV 6名+SV 1名)が平成22年1月上旬にそれぞれの任国へと出発しました。いずれも派遣前訓練終了後に帰郷しており、新潟県庁への表敬訪問には当会事務局長横山が同伴致しました。同日夕刻より、当会と新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)との共催で派遣前壮行会を新潟市内で行ない、新隊員の皆さんを激励させていただきました。当会としては、それぞれの任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていきけるように、取り組んでいきたいと思っています。新隊員それぞれの紹介と派遣にあたっての抱負は次の通りです。

氏名(H21-2)	任国	職種	
①久嶋 美和 さん	パラグアイ共和国	看護師	コソコソ頑張ります！ 今までの経験を活かし、少しでも現地の方々に喜んでもらえる様に努力していきます
②小船井 千恵 さん	モンゴル国	小学校教諭	
③志田 保子 さん	バングラディッシュ人民共和国	助産師	応援して下さいの方々への感謝の気持ちを忘れず、出来る事を地道に活動していきたいです
④篠田 敏規 さん	ケニア共和国	エイズ対策	健康第一に、少しでも状況改善の手助けになればと思います
⑤高橋 秋人 さん	エクアドル共和国	PCインストラクター	現地の人々と楽しみながら活動して行きたい
①明間 篤夫 さん	マレーシア	職業訓練校支援	よい人間関係をつくりたい／健康に留意して2年間ガンバリたい／新潟をマレーシア人に伝えたい
②加藤 康雄 さん	ブータン王国	有機栽培	これまでのSV経験(マレーシア、メキシコ、アルゼンチン)を活かして有意義な活動をしていきたい
③酒井 直行 さん	メキシコ合衆国	金型	
④平野 正 さん	ボリビア多民族国	鋳造冶金	SVは2度目だが、異文化交流に努め、自分の仕事を通して任国の役に立ちたい
⑤長沢 潔 さん	モロッコ王国	ビデオ番組制作	



氏名(H21-3)	任国	職種	
①角一 大樹 さん	エルサルバドル共和国	環境教育	日本・新潟を代表する一人として責任を果たしたい 楽しんで活動したいです
②小柳 風太 さん	ブータン王国	電気・電子機器	
③谷口 大史 さん	ネパール連邦民主共和国	植林	気候も植生も異なるネパールに何が必要か、現地の人と共に見つけて行きたいです
④原山 一志 さん	コロンビア共和国	料理	新潟の豊富な食材をコロンビアで紹介したいと思います
⑤本田 龍輔 さん	パプアニューギニア独立国	村落開発普及員	2年間、高い意識と柔軟な思考を以て活動に臨み、任国と新潟の架け橋になるよう頑張ります
⑥前田 裕美 さん	ペリーズ	PCインストラクター	
①高塚 正史 さん	ウルグアイ東方共和国	養殖	



※国旗&地図の引用:世界地図・世界の国旗 (<http://www.abysse.co.jp/world/>)

(文: 山田 規央 / 写真: 横山 容司郎)

【四】 派遣中隊員から新潟にSOS！そしてその後、、、

スリランカの子どもたちのために集めた習字道具が、現地に届きました！

本紙「なじらね.jp 第2号」でもご紹介したとおり、本県見附市出身で昨年1月よりスリランカ国にて活動中の青年海外協力隊員・田村美由紀さん(H20-3／青少年活動)より、当会に習字道具(毛筆)提供の要請SOSがあり、その後、募集活動を行って来ました。このたび、2回に分けての収集・現地輸送となりました。

＜第1陣＞ 当会事務局で募集(平成21年9-11月)

⇒ 谷内田潤子OV(H17-1／ニジュール／看護師)が、好意で個人的に運搬(平成21年11月下旬)

＜第2陣＞ 「みつけ国際フェスタ2009」(主催・見附青年会議所、平成21年11月21日)で募集

⇒ 当会事務局が発送(H21年12月下旬)

皆さんの善意により集まった習字道具は、無事に田村隊員の活動先に届き、田村隊員ら同国派遣の青年海外協力隊員によって現地の子どもたちに日本語での「習字」指導活動が行われております。ご提供して頂いた皆様にご心より御礼を申し上げます。

【提供品内訳(総計)】

半紙(50枚入り)×17袋、文鎮×5個、硯×8個

墨汁×17本、朱液×4本、下敷き×10枚、毛筆×68本



感謝の気持ち

田村 美由紀 (JOCV・H20-3、スリランカ、青少年活動)

私の任地はスリランカの北中部にあるラージャンガナヤというところ。首都のコロンボからは新潟から東京程の距離があります。しかし、日本の様に交通機関が発達していないので、バスを2回乗り継いで約6時間かかります。僻地にあり、ココナツとバナナの木に囲まれてまるでジャングルのような所です(写真①)。私は村役場の青少年課に配属されており、活動の一環として地元の青少年に日本語を教えています。大きな都市では学校で日本語の授業もあり、大学受験にも日本語を選択できる程ですが、村の学校には日本語の授業は無く私のクラスの生徒は始め日本語を全く知らない子どもたちでした。子供たちは初めて学ぶ日本語に興味津々で毎週日本語クラスを楽しみにしてくれています。

ところで、皆さんはシンハラ語と言う言語をご存知でしょうか？スリランカには3つの使用言語があり、シンハラ語はその内最も多くの人に話されてる言語です。きっと文字を見たことがない人がほとんどだと思いますが、日本語の文字とは全く違い丸いカエルのような文字です。私が初めてシンハラ語を目にしたときは、「まるで絵みたい・・・」と驚きましたが、スリランカ人は日本語を見ると必ずと言って良いほど、「まるで絵みたい・・・」と言います。その日本語の文字を一生懸命覚えようと子どもたちは毎週家でたくさん文字を練習してきます。そんな子どもたちにもっと日本語にそして日本の文化に興味を持ってもらおうと、習字を教えることを思いつきました。現在、私が教えている4つの日本語クラスで、新潟のみなさんから寄付して頂いた習字道具を使っています。筆で文字を書く習慣がないスリランカ人にとって習字は難しいようですが、初めての習字クラスでは今までに何回も練習した自分の名前を筆で書き、とても嬉しそうに私に見せてくれました(写真②)。また、届けて頂いた習字道具は、他隊員とも共有して使わせて頂いています。2月に行われた他隊員の任地でのイベントでは日本文化紹介コーナーで習字教室を行いました。その際に届けて頂いた習字道具を使い、多くの人に習字を体験してもらう事ができました(写真③④)。その後、他隊員の任地でも習字クラスを行ってほしいとの要望があり今後も多くの場所で習字道具を利用して行きたいと思っています。

私のSOSに答えてすぐに習字道具を集めて下さった横山さん、スリランカまで習字道具を運んで下さった谷内田さんを始めとする育てる会の皆さん、習字道具を寄付して下さいた新潟の皆さん、そしてみつけ国際フェスタで習字道具を募集して下さいた私の地元、見附の皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱい。今後も私の活動が皆さんに支えられていることを忘れず、頑張りたいと思っています。



※H22.2.23 広報文化専門委員会 Eメールで受理

※国旗・地図・一般事情の引用: 外務省HP(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/index.html>)

(文・写真: 田村 美由紀)

かわれた喜び

小泉 勝（当会会員／みつけ国際フェスタ実行委員／JOCV イエメン&シリアOV・H5-3, 柔道）

2009年11月21日（土）見附市のネーブルみつけにおいて、記録的な暴風雨の中、見附青年会議所主催、（後援：新潟県青年海外協力協会、JICA／協力：にいがた青年海外協力隊を育てる会、他）による『みつけ国際フェスタ2009』を開催いたしました。小生も同会議所メンバーとして最後の卒業年度にこのようなイベントができたこと大変嬉しく思いますし、お手伝いいただいた方々に改めて御礼申し上げます。

今回のイベントはメインが羽賀友信氏の講演会でしたが、そのほか内容が非常に盛りだくさんのイベントでありまして、その中の一つに当初「ベトナムからのSOS 絵本譲ってください」（奥平百合さん：H20-1ベトナム／視聴覚教育からのSOS）のコーナーを設けることで企画が進んでおりました。ところが後に11月21日では遅すぎることが判明。急遽、「スリランカからのSOS 習字道具ゆずってください」に企画変更。チラシ印刷には間に合ったものの、看板、ポスターはシールで対応。企画の詰めの甘さから最後までドタバタでありました。冒頭でも書きました通り、当日は記録的な暴風雨でありまして、なかなか来客数が伸びない中、ポツポツと筆や書道具一式などお持ちくださった方がおられました。数量的には決して多くは集まりませんでしたが、あの悪天候の中、会場までわざわざ足を運んでくださった方々に本当に感謝しております。お天気が良ければもっと集まっただろうに、と残念でなりません。

そしてこのお話には後日談があります。一つは、会場のネーブルみつけに後日わざわざ習字道具一式をお持ちくださった市民の方が、3名もいらしていました。市役所職員から連絡を受けた小生がいただきに伺い、育てる会の横山事務局長にお届けしました。やっぱりお天気がさえよければ、..なお悔やまれます。そしてもう一つが、習字道具SOS発信元の田村美由紀さん（H20-3スリランカ／青少年活動）が実は見附市出身だったこと。お恥ずかしい話ではありますが、ドタバタの中よく確認もしないまま情報発信をしておりました。OB会のメーリングリストで田村さんから投稿いただき初めて分かった次第です。しかもお母様までご来場いただいていたなんて、ご挨拶できずに残念です。帰国後にまた仲間が増えそうで楽しみです。



（文：小泉 勝／写真：横山 容司郎）

【スリランカ民主社会主義共和国】一般事情 面積：65,607km²（北海道の約0.8倍） 人口：約2,022万人（2008年央推計） 首都：スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ 民族：シンハラ人（72.9%）、タミル人（18.0%）、スリランカ・ムーア人（8.0%）※一部地域を除く値 言語：公用語（シンハラ語、タミル語）、連結語（英語） 宗教：仏教徒（70.0%）、ヒンドゥ教徒（10.0%）、イスラム教徒（8.5%）、ローマン・カトリック教徒（11.3%）※一部地域を除く値

習字道具、スリランカへ飛ぶ

谷内田 潤子（当会広報文化専門委員／JOCV ニジェールOV・H17-1, 看護師）

にいがた青年海外協力隊を育てる会事務局長の横山さんから、「スリランカへ習字道具を送りたいが、墨汁などは郵送できないので困っている。」という話がありました。ちょうどその頃、私はスパイスを組み合わせたカレー作りに夢中で、インドへカレー作り体験・スパイス調達の旅を考えていました。旅のプランを考えようとネットでいろいろ調べていると、カレーの発祥はインドではなくスリランカだということを知りました。旅先をスリランカに変更。習字道具の運送役を申し出ました。とんとん拍子で話は進み、スリランカの田村隊員を訪問することになったのです。

スーツケースに習字道具を詰め込んで成田から出発。スリランカのバンダーラナーヤカ空港までは直行便で約9時間のフライトです。機内では、「預けた習字道具が無くなってしまったらどうしよう。入国に際し荷物検査で没収されたらどうしよう・・・。」そんな不安で一杯でしたが、これといったトラブルもなく空港を後にすることができました。翌日、田村隊員に習字道具を手渡し、無事に私の任務を終えることができました。

田村隊員の任地「ラージャンガナヤ」では、習字クラスの記念すべき第1回目の授業を見学させていただきました。元気いっぱいのスリランカの子供たち。私は、習字の授業がうまくいくのかドキドキしながら見守っていました。初めて見る習字道具に興味した様子の子供たちでしたが、田村隊員の授業にどんどんと引き込まれて行きました。「木」という文字と自分の名前を書きあげた子供たちは、とても誇らしい表情をしていました。

新潟の皆さんの熱い想いが込められた習字道具は、スリランカでとびきりのパワーを発揮していました。



（文・写真：谷内田 潤子）

【五】 派遣中隊員、帰国隊員からのメッセージ

シニア海外ボランティア 平成20年度2次隊（モロッコ王国／知的障がい児教育）



湯浅 優

私は、モロッコのフェズにある知的障がい児学校（施設）で活動しています。

2008年10月の赴任以来、指導法の紹介、教育課程編成を行い、2009年9月からは、高校年齢の男子学級担任をしながら、中学校年齢の学級の美術を指導しています。作業学習のうちわや状差し、美術の張り子やモザイク等々の指導を通して、現地教員に指導法や様々な技法を紹介しています。

蒔いた種の一つでもモロッコに根付いてほしいと願っています。

（文・写真：湯浅 優）

※国旗の引用：外務省HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/morocco/index.html>）

※H22.2.25 広報文化専門委員会 Eメールで受理

"Kingdom of Morocco"



"Republic of Guatemala"

青年海外協力隊 平成20年度2次隊（グアテマラ共和国／栄養士）



坂井 晶子

私の任地ケツアルテナンゴ県カホラ市は、標高2,500Mの高地にあり、朝晩は年中寒いです。でも県内には、温泉がいくつかあり休日はたまに温泉に行きます。住民はスペイン語の他にマム語を話します。ちなみホームステイ先の家族はキチェ語を話し、グアテマラ国内で20以上の言語があるとされています。

配属先はカホラ市保健センターで、去年の7月からは365日24時間体制で診察できるようになっています。

私の目標は、5歳以下の死亡率を下げることです。しかしながら、住民の食生活の悪さや住環境の悪さから低体重児の出生が多く、さらに離乳食の概念がなく1歳まで母乳のみで育てることが多いです。5歳以下の子供が風邪や下痢で簡単に命を落としているのが現状です。この問題を改善するため、スタッフと妊婦教室・伝統産婆の研修・低体重児教室を実施しています。

（文・写真：坂井 晶子）

新潟県と地形が似ている!!
ケツアルテナンゴ県⇒



※H22.3.23 広報文化専門委員会 Eメールで受理

※国旗の引用：外務省HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/guatemala/index.html>）

"Federal Democratic"



"Republic of Nepal"

青年海外協力隊 平成20年度3次隊（ネパール連邦民主共和国／村落開発普及員）



廣田 伸子

現在私は村落開発普及員としてネパールの協同組合活動支援に携わっています。

9ヶ月前に始めた日本の有機肥料であるぼかし作りが成功し、最近村の中で徐々にぼかしが普及されてきている事に感動している今日この頃です。対象地域で日々農業を営む住民にとって、村にある資源を活用して作るぼかしは好評だった様です。

これからも村の組合員のニーズや生活に寄り添った活動になる様に、精一杯励んでいきたいと思っています。

（文・写真：廣田 伸子）

※国旗の引用：外務省HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/index.html>）

※H22.3.3 広報文化専門委員会 Eメールで受理

青年海外協力隊 平成19年度1次隊（中華人民共和国／野球）OB



桂林の観光

清野 祐

ここから発信

私は、昨年8月に帰国してから半年が過ぎました。帰国後に思う事は中国が好きになりました。

以前は好きでも嫌いでもありませんでしたが、中国で過ごした2年2カ月を通して中国の良さに触れ、中国人の優しさに触れた事により、第二の故郷は中国ですと思えるようになりました。

今後は中国に悪いイメージを持たれている方々に中国の良さを伝えていきたいと思っています。それが、私たちの使命であると思っています。

（文・写真：清野 祐）

※国旗の引用：外務省HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html>）

※H22.3.2 広報文化専門委員会 Eメールで受理

"People's Republic of China"



"Mongolia"

青年海外協力隊 平成19年度3次隊（モンゴル国／青少年活動）OG



子どもたちと

内堀 美津子

帰国して3ヶ月がたとうとしています。モンゴルにいた2年間は短くもあり長くもあり、でもとても濃いものだったと感じています。日本に帰ってきてまず、物に溢れていて、選択肢が多すぎることに戸惑いました。それから家族や友人たちが変わっていき、すぐ日本に溶け込んでいる自分にもなぜか違和感がありました。今、当たり前が当たり前じゃなかったことを忘れない様にしようと思っています。物が少なくシンプルだったからこそ見えたもの、人々のつながり、家族の愛、自然の大切さなどを伝えていけたらと思っています。そして私自身、シンプルに生きることを恐れずにいようと思います。

現在、小学校で講師として働いていますが、これからも地球上の家族のために、子どもたちと一緒に希望ある未来を作っていきたいと考えています。

（文・写真：内堀 美津子）

※H22.4.3 広報文化専門委員会 Eメールで受理

※国旗の引用：外務省HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/index.html>）

【六】 初の試み！本県出身帰国隊員の帰国報告を実現！

JICAボランティアは派遣前訓練終了後、派遣前に、出身都道府県庁および出身市区町村役場に出向き、派遣前の表敬訪問を慣例的に行なっています。派遣前についてはJICAと訪問先との調整によりこれが公的に実現していますが、帰国後についてはその実現が望まれていながらも、多くの場合、JICAと表敬先との調整は無く、隊員本人が任意で表敬を行なっており、本県出身隊員においても、これまで大多数の隊員が帰国後に表敬訪問をしたいという気はあっても、帰国報告の表敬訪問をしていなかったのが現状でした。また、これにより「帰って来たが、行方知らず」となり、県内での帰国隊員同士のネットワーク構築の気運が低迷化も問題となっておりました。

このような現状をふまえ、当会と新潟青年海外協力協会(JOCA新潟)とで、帰国隊員の帰国報告の機会実現について協議致しました。JICA新潟デスクとの連携の下、初の試みとして、新隊員による県庁での派遣前表敬訪問の日程に合わせて、その直前に帰国した隊次の隊員に案内状を送付、参加可能な隊員に同行して頂こうということになりました。そしてこのほど、平成22年3月19日(金)の午後、新隊員(H21-4)の派遣前表敬訪問の機会に合わせ、その直前(1月)に帰国した内堀美津子さん(JOCV H19-3/モンゴル/青少年活動)が、現職場で休暇を取って帰国報告に来て下さいました。県庁および新潟県国際交流協会への帰国報告後、新潟市出身の内堀さんは、その後の新潟市役所への表敬にも同行して頂きました。訪問先ではどこも、これまでなかった帰国隊員の報告を熱烈に歓迎して下さい、森 新潟県副知事、能登谷 新潟市経済・国際部部長からは「帰国後もぜひ新潟県で活躍して欲しい」との激励の言葉とともに、「行政としても帰国後の隊員をフォローしていきたい」との言葉を頂きました。

当会は、今後も県内出身帰国隊員の帰国報告の機会を推進し、本県地域社会での活躍を応援していきます。

（文：山田 規央）

